

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神障害作業療法治療学演習			必修	1	3	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
池谷 政直		C311	ot_ikeya		水曜日 9:00~10:30	
授業の目的・概要	本科目は評価学と治療学で学習した知識を臨床実践へと繋げるための治療技術の獲得を目的としている。回復状態に応じた作業療法の役割を理解し、プログラムを立案するまでの一連のプロセスをグループワークを通して経験する。各学習内容について、文献・視覚教材・課題を通して理解し、フィードバックとメディアを利用したグループワーク等の意見交換を行い、精神機能作業療法の理解を深める。					
学習上の助言	精神障害領域の作業療法における、プログラムの企画・運営を想定した演習である。疑問や質問等は随時アドバイザーである教員にするなどし、解決に努めてほしい。					
教科書	教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。					
参考書	ひとと集団・場-ひとの集まりと場を利用する-/著：山根 寛他/三輪書店 統合失調症を知る心理教育テキスト当事者版/著：NPO法人地域精神保健福祉機構					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	精神障害作業療法で用いられる治療技術について、説明することができる				OT (1) (2) (3)	
②	治療者としての自覚を持ち、運営やリスク管理について検討できる				OT (1) (2) (3)	
③	作業療法プログラムの計画までの一連の流れを経験する				OT (2) (3)	
④	発表に向けたグループワークにおいて自身の役割に責任をもつことができる				OT (1) (3)	
⑤	実施したプログラムについて、成果や課題を振り返ることができる				OT (2) (3)	
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション 授業の流れについて説明する	同時双方向型授業	(事前学習) これまでの学習内容の振り返り (事後学習) 授業資料を用いた復習	1		
2	回復状態に応じた心理教育プログラムについて学習する	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 授業資料を用いた復習、Teams の課題を用いた理解度の確認・復習	1		
3	心理教育プログラムの実践①： 心理教育プログラムの資料をグループごとに作成する (発表準備)	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		
4	心理教育プログラムの実践②： 心理教育プログラムの資料をグループごとに作成する (発表準備)	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		
5	心理教育プログラムの実践③： グループで作成した心理教育プログラムを発表し、内容についてディスカッションを行う	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		
6	心理教育プログラムの実践④： グループで作成した心理教育プログラムを発表し、内容についてディスカッションを行う	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		
7	当事者主体のリハビリテーション、リカバリー型の支援について学習する (IMR、WRAP、IPS 等)	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 授業資料を用いた復習、Teams の課題を用いた理解度の確認・復習	1		
8	社会生活技能訓練 (SST) について学ぶ	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 授業資料を用いた復習、Teams の課題を用いた理解度の確認・復習	1		
9	精神科作業療法の実践マネジメントについて学習する (プログラムマネジメント、リスクマネジメント)	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 授業資料を用いた復習、Teams の課題を用いた理解度の確認・復習	1		
10	作業療法プログラムの実践①： 疾患・回復期別の対象者に対して、グループごとに作業療法プログラムを計画する	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		
11	作業療法プログラムの実践②： 疾患・回復期別の対象者に対して、グループごとに作業療法プログラムを計画する	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		
12	作業療法プログラムの実践③： グループごとに作業療法プログラムを発表し、内容についてディスカッションを行う	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1		

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

13	作業療法プログラムの実践④： グループごとに作業療法プログラムを発表し、 内容について全体でディスカッションを行う	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 発表担当課題の実施	1			
14	認知行動療法について学習する	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 授業資料を用いた復習、Teams の課題を用いた理解度の確認・復習	1			
15	認知リハビリテーションについて学習する (NEAR、SCIT、MCT 等)	同時双方向型授業	(事前学習) 配布資料の該当箇所を精読する (事後学習) 授業資料を用いた復習、Teams の課題を用いた理解度の確認・復習	1			
試	レポート試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	60	40	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	10	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	25	10	0	0	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	0	5
	問題を発見・解決する力	0	25	5	0	0	30
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	第 13 回目の授業において精神障害事例を提示する。 評価結果をもとに事例の問題点の焦点化・目標設定・治療プログラムの立案を行い、レポートにまとめる。 レポートは配布するルーブリックに基づいて成績評価を行う。 レポートの成績は総合評価の 60%に換算する。				レポートにフィードバックを記載した上で返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①		第 3～6 回、第 10～13 回は担当になった課題をまとめ、パワーポイントで発表する。 配布するルーブリックに基づいて成績評価を行う。 意見・質問などの取組みの姿勢・意欲も評価に含む 成果発表の成績は総合評価の 40%に換算する。				授業でのディスカッションを通して適宜フィードバックを行う。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎池谷 政直</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境等を推奨する。Teams を使用したグループワークも実施するため、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。</p> <p>なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況など、社会情勢によっては再度シラバスを変更する可能性がある。</p> <p>教員の実務経験：本科目を担当する教員は作業療法士として精神障害領域において 10 年以上の実務経験を有している。</p> <p>実践的授業の内容：配布資料と併せて実際の治療場面の映像など、視覚教材を用いることで学生の理解に繋げる。また臨床における治療で得た知見に基づき講義を展開する。</p>							